

日本ドキュメントサービス協同組合連合会全国大会

北海道大会開催

平成 30 年は日本各地が甚大な被害に見舞われた年です。

被災された方々にはお見舞い申し上げます。

幸いにして、近畿ドキュメントサービス協同組合組合員及び賛助会員からは、大きな被害を受けたという連絡は無く、ほっとしています。

その被害が大きかった、北海道において平成 30 年 10 月 11 日ニューオータニイン札幌で、日本ドキュメントサービス協同組合連合会全国大会北海道大会が行われました。



今年、「未来へつなぐ、みんなでつなぐ 2018 年。北海道命名 150 年という歴史の地」北海道へは、近畿ドキュメントサービス協同組合からは組合員 17 社 18 人、そして近畿ドキュメントサービス協同組合に関わる賛助会員 10 数名の参加を頂きました。

今回の大会コンセプトは「次世代に継ぐ」—その先の、道へ。北海道— 式次第にのっとり、式は進められます。

まず、日本ドキュメントサービス協同組合連合会大会ホスト役、森下修至会長の挨拶。そして大会実行委員長兼情報創造事業協同組合理事長 榊原氏挨拶。



続いて、北海道経済産業局産業部長 中野健様、北海道中小企業団体中央会副会長 藤枝清規様

公益社団法人日本文書情報マネジメント協会 理事長高橋様からご祝辞を頂きました。

その後、日本ドキュメントサービス協同組合連合会や業界に対して尽力された方榊原理事長含み、情



報創造事業協同組合 5 名、近畿ドキュメントサービス協同組合田中理事に、業界功労賞を贈りました。

続いて、業界及び DS 連の発展と功労に尽力頂いた感謝の気持ちを表すべく、賛助会員 3 社様キヤノンマーケティングジャパン(株)神埼様、富士ゼロックス(株)古屋様、リコージャパン(株)加藤様へ感謝状の贈呈が行われました。その後、今大会のコンセプトに沿った基調講演が「次世代に繋ぐ」と題して、国土交通省北海道開発局局長和泉晶裕氏により行われました。将来の北海道がどんな風に変化していくのだろうか?とわくわくするお話でした。



そして、日本DS連が推奨する確定拠出年金について、小川室長や佐々木コンサルタントよりお話があり、今年度は各地でセミナーを開催し、情報提供いただけるということです。



そして、大会イベントの一つ、札幌市在住の書道家石野華鳳氏による書道パフォーマンスとして大会の言葉、「繋

を屏風一杯に書く圧巻のパフォーマンスを楽しみました。

その屏風が乾く間に、情報創造事業協同組合の青年部長野田融氏や青年部教育情報委員長小谷和広氏により、事例発表が行われ、青年部での年間活動の紹介やこれからの目標、組合の主な事業の共同受注の取り組みを現場から見た現状と課題の発表が行われました。



近畿ドキュメントサービス協同組合においても若い組合員さんの活動の場を広げたいと考えていますので、大変参考になった事例発表でした。

そして、先ほどの屏風を真ん中にして、今回参加者全員による記念撮影が行われました。



ここで、一旦休憩を挟み午後6時30分からは、北海道の味覚を食べつくすごとく、「北

海道だべさーそだねー懇親会」が盛大に行われました。



ここでも、主催者の挨拶後、ご参加賜りました、賛助会員キャノンM J(榎宮前様、富士ゼロックス(榎麻生様、リコー(榎武田様から



ご挨拶を頂戴し、日本イメージ情報業連合会井上会長のご発声により懇親会開宴となりました。宴には日本各地からお越しの皆様ですので、情報交換の種は尽きず、盛會に過ぎゆく中、アトラクションである北海道在住アーティスト Jumble34 による生演奏がより一層宴を華やかなものにしていました。楽しい時間はあっという間に過ぎました。閉会挨拶後は、青年部の方にいざなわれて、いざ！すすきの2次会会場へ繰り出し、長い夜はふけていきました。

翌日はゴルフ組、旭山動物園組、プライベート旅行組、帰社組に分かれ、大会の幕がおろされました。

大会ホスト役の実行委員の方々事務局様、お疲れ様でした。有意義で楽しいひと時を有難うございました。

